

はじめに

2002年度から日本留学試験が実施され、2003年6月の試験が第3回目となる。

日本留学試験の「日本語」科目に注目すると、従来の留学生入試においては日本語能力試験1級合格を基準として留学生受験者の日本語能力を測ってきたことからすると、様変わりと言ってもいいほどに、日本語力にたいする測り方、見方の転換を迫っている。そして、日本留学試験の「日本語」シラバスが、試験のコンセプトを「アカデミック・ジャパニーズ（大学での勉学・生活に必要な日本語力）」とうたっているにもかかわらず、日本留学試験の「日本語」科目のあり方にたいする、大学における日本語教育関係者の関心は、あいかわらず真摯なものとは言えない現状がある。

日本留学試験「日本語」科目の試験問題は、まだ新しい試みを開始させたばかりの状態であり、「アカデミック・ジャパニーズ」の基礎力を問うという趣旨からすれば、発展途上のものである。試験問題のあり方と質についても、今後、多くの観点から批評・対案が自由に提起されていく必要があるだろう。

また、日本留学試験の導入は、特に日本語教育の継続性という点から、大学入学前の日本語予備教育（国内では主に日本語学校や2つの国立大学日本語教育センターと私立大学日本語別科が担っている）と大学における日本語教育との連携が必要となってきた。しかし、この点についての一部の関係者による熱心な連携の呼びかけも、十分な反響を得ていない。

「日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ」と題した本報告書は、上記の3点について、それぞれの教育・研究姿勢からの貢献をこころみたくと集った教育・研究者集団が、科学研究費補助金を得て行っている共同研究の、2002年度における成果を報告するものである。

本報告書にその成果を寄せたメンバーたちをひとつの核として、今秋にも「アカデミック・ジャパニーズ・グループ」というテーマ研究会が日本語教育学会のもとに立ち上がる予定である。このテーマ研究会と、そのホームページにおいて、この問題に関する自由闊達な議論と、教育実践の試みが展開されることを期待している。

以下ではまず、本報告書の教育・研究者集団の「自己紹介」として、科学研究費補助金申請書に記載した「研究目的」と、2001年度、2002年度の活動概況の報告を記しておきたい。

2003年8月

門倉正美

(横浜国立大学留学生センター教授)

kadokura@ynu.ac.jp